

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2013

9月

No.99



特集

P2・3

突栗のために役立っています!!
赤い羽根共同募金



ひ孫と
いっしょ

シリーズ98

山崎町 木谷

谷上 一子さん(77歳)

○集翔くん(5歳)

○晴翔くん(2歳)

井上 啓輔さん・由岐子さん

■長男・二男



毎年のことすみません…

でも、宍粟のために役立っています!!

赤い羽根共同募金

今年もご協力をお願いします!



宍粟のために役立つ赤い羽根共同募金

写真左上:ののほな保育園(山崎町生谷)では、ほしかった跳び箱を購入しました 写真右上:今年度の地域福祉応援助成事業審査会の様子(H25.6.10 一宮保健福祉センター) 写真左下:社協の移送サービス車のリース料に 写真右下:さつき作業訓練所(山崎町五十波)では、写真中央にある専用の作業台を設置しました

赤い羽根共同募金は、地域の福祉活動をはじめ、
私たちのまちの子どもたちや高齢者、障がいのある方などを
支援するさまざまな福祉活動に役立っています。

宍粟で募金をする、宍粟の誰かのために役に立つ…。
赤い羽根共同募金は、私たちのまち「宍粟を良くする募金」です。
今年も10月1日から始まります。ご協力よろしくお願いします。

宍粟市共同募金委員会

読者の
感想より

「こんにちは!社協です!!」はカラーで写真も多くて読みやすく、どこでどんな行事があったのかもよく分かり、いいですね!(千種町 女性)

こんにちは!
社協です!! 2

みなさんの募金の**9割**は、**宍粟へ!!**



昨年のこども劇場の様子
今年は、11月7日(木)城下幼稚園、8日(金)メイプル福祉センターで行います
※詳しくは、来月号でお知らせします



山口県大雨災害被災地で活動する宍粟市
社協災害救援ボランティアのみなさん
(H25.8.12 山口県萩市)

平成24年度の宍粟市でお寄せいただいた募金の総額は、**9,128,178円**でした。今年度はそのうちの**約9割、7,997,000円**が「共同募金配分金」として宍粟に戻り、宍粟の地域福祉活動に活用されています。

共同募金配分金で取り組む主な事業

- 自治会福祉連絡会（小地域福祉活動助成金）への助成金に
- 高齢者や障がい者が通院するための移送車のリース料に
- ひとり暮らし高齢者等への配食サービスに
- 地域福祉活動に取り組む団体への助成事業「地域福祉応援助成事業」に
- 障がい者の作業所や民間保育園所の活動を支援するために
- 赤い羽根「こども劇場」や「ふくし映画会」の実施に
- 社協広報紙作成費用の一部に

そして残りの1割は… 市や町の枠を超えて広域的な課題を解決するため、次のような活動に活用されます。

○県内の福祉施設への活動助成に

今年度、障がい者施設「さつき園」（山崎町五十波）が、事業で使う車が不足していたことから、共同募金からの助成を受け、ワゴン車を購入することになりました。

助成金額 122 万円

○大規模災害発生時の支援活動に

大規模な災害が起こった際の備えとして、各都道府県の共同募金会に「災害等準備金」として毎年積み立てられ、東日本大震災やこの7月に山口県や島根県等に大きな被害をもたらした大雨災害など大規模災害が発生した時に災害ボランティアセンターの設置費や運営費として活用されます。

10/20(日)

ちくさふれあい
フェスタ会場
(千種市民局周辺)
午前10時～

昨年の街頭募金で
募金を呼びかける
一宮ひかり保育所
の子どもたち
(H24.10.1 道の
駅播磨いちのみや)



10/1(火)

咲ランドショッピングセンター
午前10時～
道の駅播磨いちのみや
午前10時30分～
Aコープ波賀店
午後4時30分～

宍粟市共同募金委員会では、共同募金運動期間中に市内の大型店舗等の入口で、募金推進委員やボランティア、保育園児等が「街頭募金」を呼びかけます。みなさん、ご協力をお願いします。

今年の共同募金
運動のポスター

今年もあたたかい
ご協力を!
街頭募金運動



読者の
感想より

「やいはちトピックス」は毎回楽しみにしています。ふれあい喫茶も各地区によりいろいろな活動があり、参考になります。「いきいきライフ」からも元気をもらっています。(山崎町 女性)

や

まさき

“むら内みんな仲がええ関係”

～ 上寺親睦会の世代交流 ～

上寺自治会には、今年で40年を迎える『上寺親睦会』があり、現在のメンバーは男性ばかりの24名。

夏はアユ釣り、秋は子ども神輿と、結成された当時から、地域の子どもの世代間交流に一役買っています。

8月4日(日)、

夏休み恒例の『アユ釣り大会』には、幼稚園から小学生

まで約50名の子どもたちが参加し、水路に放されたアユ



「アユもうとつてもええ?」開始の合図を心待ちにしている子どもたち(上寺地内の水路)

(山崎支部 森井裕矢)

380匹を掴み取りしました。つかまえたアユは、公民館で塩焼きにしてみんなで食べたり、お年寄りのお宅へ届けたりしました。

初めて参加した子どもたちからは「めっちゃ楽しかった。来年もあるかな」「上寺の子でよかった」など、夏休みの楽しい思い出が増えたようです。

「続けることに意味がある。これからもこの会がある間は続けていきたい」と、結成メンバーの浦川清春さん。

「むら内みんな仲がええ関係づくり」になっているこの取り組みが、さらに長く続いていくことを願っています。

い

ちのみや

赤い羽根のしおりを製作

マイルドマザーズ

和気あいあいと古切手の整理をされているのは、収集ボランティアグループ「マイルドマザーズ」のみなさんです。8月10日(土)、進藤栄さん宅(三方町)に集合されるとお聞きし早速伺いました。

マイルドマザーズは、お互いに幼稚園児をもつ母親がPTAのつながりで、お友達同士の「おしゃべり会」として集まっていたのが始まりで、発足して29年になります。

現在7名のメンバーで古切手の整理を行い、5年前からは古切手を使ったしおりを製作しています。

この日は、10月1日から始まる「赤い羽根共同募金運動」の街頭募金で、募金されたみなさんに渡してほしいと、『赤い羽根のしおり』500個を製作。

「この活動は、したげよう、じゃなく、させてもらいよう」の気持ちでやって



この日は4人でしおりの製作を。「見て見て、懐かしい切手があるで」(進藤栄さん宅)

「いますよ」と、代表の田路民子さん。好きな時間に、気を使わずに、慣れ親しんだ仲間といっしょにできるボランティアとして本当にいいものですね。(本部・二宮支部 波多野好則)



古切手のしおりです

は
が

ふれあい喫茶で私たちにできること

福祉委員・ふれあい活動研修会

8月26日(月)、メイプル福祉センターで「波賀支部福祉委員・ふれあい活動研修会」を開催しました。自治会の福祉委員やふれあい喫茶・サロンのボランティア、45名の参加がありました。

今回のテーマは『ふれあい喫茶から見守り活動へ』。

グループに分かれての話し合いでは、自分たちや自治会の将来に備えて、「ふれあい喫茶で今できることは何か」を考えました。

「施設に入れん認知症の人が増えるやろなあ」「気軽に集まれる場所が身近な所があればええな」と、参加者の思いは尽きることがありませんでした。

最後に、「今日の



「今私たちに何ができるやろ」「そうやなあ、難しい問題やな」
(メイプル福祉センター)

テーマを自治会みんなで考えた」と、大変心強い言葉もいただきました。

今回の研修会をそれぞれの自治会の福祉活動に活かしていただきたいと思います。

(波賀支部 平有利菜)

七野でふれあい喫茶

スタート

ボランティアグループ「なのの会」

8月24日(土)、七野自治会で今年から新たに立ち上がったふれあい喫茶が行われました。

当日は、子どもからお年寄りまで25名が参加しました。

今回は、地域づくり学習会(映画上映)に合わせての開催でした。

喫茶の運営は、食生活改善グループを中心として結成した「なのの会」が担当しています。

「ふれあい喫茶は今日で2回目。私ら食生活のグループやから、ついオレンジゼリーにも人参をいれてみたりして」と代表の村上悦子さん。

この日は、受付や配膳のお手伝いで中学生も参加していました。



映画上映前のひととき、お茶を飲みながら会話ははずみます
(七野公民館)



助成金を活用して、かわいいトレーもそろえました

この夏から始まったばかりのふれあい喫茶。これからもみんなで協力しながら、七野のみなさんが気軽に集える地域交流の場として長く続いていくことを期待しています。

(千種支部 小原志のぶ)

ち
くさ

喫茶ボランティア 「ゆめふうせん」スタート!



「ゆっくりして行ってよ」「久しぶり!」

8月22日(木) 波賀町上野

Aコープ波賀店敷地内にある、ふれあい喫茶「ゆめふうせん」にお邪魔しました。

この喫茶に取り組んでいるのは、7月に結成されたばかりのボランティアグループ「ゆめふうせん」です。

「買い物や通院の時間を使って、町の人が集まることのできる場を作りたい。と、友達同士で集まって結成しました。9月にはメニューを少し変えるので、また来てね。」と代表の岡本輝美さん。

「美味しかった」「ええ場所を作ってくれちゃった」と、早くも利用されたみなさんには好評でした。今後も町の交流の輪がふくらんでいきますように。

(波賀支部 草田希望)

ゆめふうせん活動日/毎週月曜日・木曜日 9:00~11:30

夏休みに楽しく体験!

サマーボランティア2013 一部教室紹介

夏休みを利用し、学校では学べない体験をしようと11教室を開催し、86名の児童、生徒が参加しました。

災害防災 体験教室



阪神淡路大震災の発生後、いつも歩きた商店街が焼け野原になった話を聞き、地震の怖さを学びました

○阪神淡路大震災の写真や話を聞いて地震のおそろしさを知りました。災害がおこって家族とはなれた時の待ち合せ場所を決めようと思いました。(小5 女子)

○消防士さんに消火器の使い方を教えてもらいました。使い方を体験できたのでよかったです。(小4 男子)

豪雨災害から4年! シンポジウムに150名が参加

8月25日(日)一宮保健福祉センターにおいて、「やすらぎ福祉フェスタ」を開催しました。そして午後から、その一環として「豪雨災害から4年!あらためて地域のつながりを考える」をテーマにシンポジウムを行いました。

最初に、台風9号豪雨災害と災害ボランティア活動を映像で振り返り、ディスカッションでは、伊達良子さん(一宮町曲里)、細川泰二さん(一宮町福知)、本会から波多野好則コミュニティワーカーが登壇。



左から、山本事務局長(進行)、荻田副部長(コメンテーター)、伊達さん、細川さん、波多野コミュニティワーカー

被災者、自治会関係者、災害ボランティアセンターの運営、それぞれの立場から当時を振り返りました。

伊達さんからは、「多くのボランティアに助けていただきありがたかった」とお礼をこめた感謝の言葉があり、福知災害対策本部で陣頭指揮をとられた細川さんからは、災害に備えた準備と地域のつながりの重要性についてお話いただきました。また、波多野コミュニティワーカーは、「平常時からの住民同士のつながりづくりが大切」と思いを語りました。

最後に兵庫県社協荻田藍子副部長から、東日本大震災や全国各地で起こっている水害への支援や復興に向けた取り組みの報告、そしてこれまでの教訓を活かした地域内での福祉防災マップづくり等について説明があり、参加者それぞれが災害時に生きる地域での支え合いについて考える機会となりました。

宍粟市社協では豪雨災害の経験や教訓を風化させないため、今後も住民同士で支え合う地域づくりをすすめるため、住民のみなさんといっしょに考える機会をつくります。

(本部・一宮支部 田中祥仁)